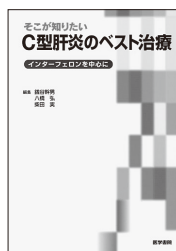


書評

[評者]

山田剛太郎

川崎医大附属川崎病院
肝臓消化器病センター



そこが知りたい C型肝炎のベスト治療

インターフェロンを中心に

銭谷幹男・八橋 弘・柴田 実 編

B5判 頁212 2009年

定価 3,675 円(本体 3,500 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-00738-2] 医学書院刊

ここ数年、国を挙げてのウイルス肝炎・肝癌の撲滅運動が本格化している。ウイルス肝炎の抗ウイルス療法においても、治療法の研究開発に対する厚労省からの助成金の増額に加えて、2008年4月よりC型肝炎、B型肝炎のインターフェロン療法に対する公的助成制度が始まっている。そこで、肝炎の専門医療機関のみでなく、一般医療機関においてもC型およびB型肝炎患者の治療への関心が急速に高まっている。

このような時期に、C型肝炎を長年にわたって診療され、精通された3人の先生方が編者となり、C型肝炎の診療ならびに治療に関する実践に即した成書として『そこが知りたいC型肝炎のベスト治療』が企画・出版された。

前半では患者説明に役立つわかりやすい図譜をはじめとして、C型肝炎の自然経過、各患者の治療効果を予測する因子、インフォームド・コンセント、ガイド

ラインに基づく標準治療法など、重要なポイントが網羅されている。後半ではインターフェロン療法の実際の進め方、合併症などが詳細に紹介されている。

この本の特徴は、各エキスパートにお願いして、自分の実際の経験を基に、症例に応じた治療の対応の仕方やさじ加減ともいえるべき、通常のテキストにはあまり書かれていない各自の治療における考え方を、非常にわかりやすく解説していただいている点である。

また、インターフェロンの社会医学として、国や東京都の医療費補助の取り組みや肝炎情報センターについても詳しく紹介されている。さらに付録として現在、保険採用されている各インターフェロンのバイアルをカラー写真で示し、その特徴に加えて、投与上の注意点、報告されている有害事象が詳細にまとめられている。

まさにC型肝炎治療における日常診療の手引とも言えるべき書である。